

2019年度
バイオマス活用アドバイザー養成研修
現地研修開催地
(地方自治体)の募集

日程・会場

現地研修：2019年10月～12月の連続した4日間

事前実習：2019年8月26日(月)～29日(木)／馬事畜産会館

 **JORA** 一般社団法人日本有機資源協会

2019 年度 バイオマス活用アドバイザー養成研修

現地研修自治体 募集要領

1. 名称	2019 年度 バイオマス活用アドバイザー養成研修
2. 趣旨	<p>世界的に地球温暖化対策や生物多様性保全など、持続可能な循環型社会形成に向けた取組が進められる中、わが国では「バイオマス・ニッポン総合戦略」から「バイオマス活用推進基本法」の施行による「バイオマス活用推進基本計画」の策定や見直し等を受けて、未利用や生物系廃棄物等のバイオマスを効果的かつ効率的に活用することが進められてきました。</p> <p>バイオマスの活用は、グリーン産業、静脈産業としても期待され関連技術の研究開発も盛んであり、特に持続可能な食料生産に資するコンポスト化や温室効果ガス排出量削減に資する電気や熱等へのエネルギー化などの分野では事業化が進んでいます。また、東日本大震災を機に再生可能エネルギーの一つとしても注目されています。一方で、廃棄物系・未利用系を含めて、バイオマスは多種多様な資源であり、原料の収集・運搬や供給、変換技術、製品の流通と利用に至るまで多くの関係者がかかわっているものの、持続的、安定的に製品やエネルギーを生産し利用するにはまだ多くの課題があります。</p> <p>このような状況下、当協会（以下「JORA」）は、バイオマスの有効利用促進と持続可能な循環型社会の構築を目的に人材育成事業をはじめ様々な事業を展開しており、今年度も人材育成事業の一環として、バイオマスの賦存量及び活用量の把握手法、製品やエネルギー等多様な変換・利用方法、農林水産業をはじめとする地域の様々な産業との連携等、多方面にわたる豊富な知見を有し、地域の実状を踏まえて関係者間の調整や事業化に向けた支援等により「現場を動かしていく」人材である「バイオマス活用アドバイザー」の養成研修を実施いたします。</p> <p>本研修修了者につきましては、バイオマス活用アドバイザーとして必要な知識と技術を習得したことを認定し、研修修了証を交付するとともに、“バイオマス活用アドバイザー連絡会”とも連携を取りながら、全国の自治体におけるバイオマス活用推進計画の策定支援やバイオマス活用の具現化に向けた活躍を期待します。</p> <p>また、この認定を受けた方を対象にフォローアップ研修を定期的実施し、その資質の向上に努め、JORAとの協調等により、継続的にバイオマス活用の推進に努めていただくこととしております。</p> <p><u>本研修におきましては、現地研修を必須としており、その場所提供を頂けます自治体を公募いたします。当該自治体につきましては、本研修を通じて研修生による地域のバイオマス賦存量や活用方針等を含む「バイオマス活用推進計画（案）」が作成・提供されるとともに、研修終了後は、JORAが第8項に示す協議による範囲にてバイオマス活用推進計画の策定等を支援いたします。</u></p>
3. 研修内容	<p>バイオマス活用アドバイザーとして必要とする知識及び技術の習得を目的とし、以下の講義、実習を行います。＜講義内容詳細は[別表1]～[別表3]参照＞</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 講義：バイオマスに関する最新の政策や施策、バイオマス活用技術、事業化事例、バイオマス活用推進計画の作成手法、等 2) 実習：個人及びグループによるバイオマス活用推進計画案の作成と発表 <p>※ <u>現地研修実施自治体には、事前実習日に研修生によるヒアリングや意見交換を通じて自治体の意向を伝えていただきます。</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 3) <u>現地研修：現地研修実施自治体における関係者へのヒアリングや現地調査等に基づく、バイオマス活用推進計画案の練成を通じた実効性のある計画策定手法等の習得、計画案のプレゼンテーション、質疑応答、等</u> 4) 小論文：研修生は現地研修終了後に、別途指示するバイオマス活用に関する小論文を所定期日までに提出していただきます。

4. 実施日程 および 実施場所	講 義：2019年8月26日(月)～28日(水) 馬事畜産会館 実 習：2019年8月28日(水)～29日(木) 馬事畜産会館 現地研修：2019年10月～12月のうち、現地研修実施自治体が希望する、土曜・休日・祝日を除いた連続する4日間 ＜詳細は[別表1]～[別表3]、講義・実習会場は添付地図参照＞
5. 応募資格	下記①～④に掲げる資格を満たす自治体とします。 ①バイオマス活用推進計画の策定（バイオマスタウン構想の見直しを含む）やバイオマス活用の事業化等、バイオマス活用に積極的で、研修期間中に資料の提供、研修場所の提供、関係者への案内、宿泊場所の確保等に対応していただける担当者配置できること ②講義・実習開始時期までに、バイオマス活用推進計画案を作成するために必要となる資料（要覧、諸施策・ビジョン、バイオマス賦存量算定に資する統計資料等）を提供できること ③本要領、3「研修内容」のうち、2）実習（4日目／東京開催）に参加可能なこと。また、3日目最終講義に「自治体の概要と質疑」を設けており、可能な限りご参加をお願いし、ご欠席の場合は詳細資料の用意をお願いする場合があります。（なお、集合研修についてはどの時点からでも無料で聴講いただくことは可能ですが、場合によっては人数制限があります） ④現地研修の際に、研修生及び事務局の執務場所（7名程度、パソコン・プリンタ・コピー機・インターネット等が使用できる環境）を提供でき、地域のバイオマス関係者（有識者、関連企業等）とのヒアリングや意見交換の場を設定できること
6. 募集自治体数	最大5自治体（1自治体あたり研修者数4～5人とし、研修者数により調整します）とし、応募受付順で定数に達し次第締切ります。
7. 応募方法	「バイオマス活用アドバイザー養成研修 現地研修自治体申込書」に必要事項を記入し、2019年8月19日(月)までに電子メールもしくは郵送・宅配便にて、事務局まで送付願います。（郵送・宅配等の場合は、発送時にご一報願います）書類到着後、内容、必要事項等について確認・連絡させていただきます。
8. 必要経費	本研修実施に際して応募自治体にご負担いただく費用は、東京で開催する研修会場までの自治体ご担当者の旅費（交通費、宿泊費等）、事務局連絡調整費、現地研修に係る事務局旅費（交通費、宿泊費等）及び現地事務消耗品等、となります。（研修生の旅費・宿泊費等は含みません） 研修終了後に引き続いてバイオマス活用推進計画策定等について、JORAから支援を希望される場合は、業務支援費等が必要となりますので、詳細および金額につきましては別途協議の上決定・ご契約をさせていただきます。 ＜参考＞東京研修会場近隣のホテル ホテルサードニクス東京 T e l : 0 3 - 3 5 5 3 - 7 2 0 0 ドーミーイン東京八丁堀 T e l : 0 3 - 5 5 4 1 - 6 7 0 0 ホテル法華イン八丁堀 T e l : 0 3 - 3 5 3 7 - 7 7 1 1 ヴィラフォンテーヌ茅場町 T e l : 0 3 - 3 5 5 3 - 2 2 2 0 パールホテル茅場町 T e l : 0 3 - 3 5 5 3 - 8 0 8 0 スマイルホテル東京日本橋 T e l : 0 3 - 3 6 6 8 - 7 7 1 1
11. その他	研修全体の概要については[別表1]～[別表3]を、受講生募集の概要については別案内の「開催案内」をご参照下さい。
12. 連絡先	一般社団法人日本有機資源協会 事務局（鈴木、土肥、邑松） 〒104-0033 東京都中央区新川2-6-16 馬事畜産会館 401号室 TEL : 03-3297-5618 / FAX : 03-3297-5619 /E-mail : kensyu@jora.jp

【別表1】 2019年度 バイオマス活用アドバイザー養成研修 集合研修日程

開催日: 2019年8月26日(月)～29日(木)

開催場所: 馬事畜産会館(東京都中央区)

日 時	講 習 内 容	講 師	
第 1 日 目	13:00～	受付	
	13:20～13:25	オリエンテーション	事務局
	13:25～13:30	開講にあたって	一般社団法人日本有機資源協会
	13:30～14:00	バイオマスをめぐる情勢(仮題)	農林水産省(予定)
	14:00～14:30	再生可能エネルギーとしての バイオマスの活用(仮題)	関係省庁(予定)
	小 休 憩		
	14:40～16:00 (80分)	バイオマス概論Ⅰ(エネルギー利 用)	横山 伸也 (公立鳥取環境大学 特任教授・ (一社)日本有機資源協会 副会長)
	小 休 憩		
	16:10～17:30 (80分)	バイオマス概論Ⅱ(マテリアル利用)	牛久保 明邦 (東京農業大学 名誉教授・ (一社)日本有機資源協会 会長)
	17:45～19:15	交流会	
第 2 日 目	9:10～10:30 (80分)	バイオマス活用事例Ⅰ (廃棄物系バイオマス)	中新田 直生((株)市川環境エンジニアリング 執行役・ Bio フォレストーション(株)取締役)
	小 休 憩		
	10:40～12:00 (80分)	バイオマス活用事例Ⅱ (木質系バイオマス)	滝澤 誠 (グリーン・サーマル(株)代表取締役社長)
	昼 食 休 憩		
	13:00～14:20 (80分)	自治体主体のバイオマス活用事例	永嶋 靖史 (栃木県茂木町農林課)
	小 休 憩		
	14:30～15:50 (80分)	バイオマス活用推進計画の策定 (行政における取組)	小澤 はる奈 (NPO 法人環境自治体会議 環境政策研究所)
小 休 憩			
16:00～17:20 (80分)	バイオマス活用推進計画策定の実 務	中坪 秀彰(NTCコンサルタンツ(株)開発事業部部長・ バイオマス活用アドバイザー)	
第 3 日 目	9:10～10:30 (80分)	国のバイオマス活用施策のまとめ	嶋本 浩治 ((一社)日本有機資源協会 事務局長)
	小 休 憩		
	10:40～12:00 (80分)	バイオマス活用の事業化	広瀬 祐 (T&Pテクニカ 代表・ バイオマス活用アドバイザー)
	昼 食 休 憩		
	13:00～15:30 (150分)	推進計画策定に係る調査フロー及び バイオマス賦存量の算定方法(演習)	菅原 良 ((一社)日本有機資源協会 事務局次長・ バイオマス活用アドバイザー)
	小 休 憩		
15:40～17:20 (100分)	実地研修自治体の概要と質疑	(実地研修先自治体担当者)	
第 4 日 目	9:10～12:00 (170分)	バイオマス活用推進計画策定実習 (個人)	事務局、バイオマス活用アドバイザー (実地研修先自治体担当者)
	昼 食 休 憩		
	13:00～15:00 (120分)	バイオマス活用推進計画策定実習 (グループ)	事務局、バイオマス活用アドバイザー (実地研修先自治体担当者)
	小 休 憩		
	15:00～16:30 (90分)	推進計画案の発表	(研修生)
16:30	閉講式		

[別表2] 2019年度 バイオマス活用アドバイザー養成研修 講義・実習概要

番号	講義名(仮題)	概要
1	バイオマスをめぐる情勢 (農林水産省<予定>)	「バイオマス・ニッポン総合戦略」「バイオマス活用推進基本法」「バイオマス活用推進基本計画」等のバイオマス活用に関する施策や補助制度、バイオマス産業都市やバイオ燃料など国内外に向けたバイオマス活用の取組の最新情報、等
2	再生可能エネルギーとしてのバイオマスの活用(仮) (経済産業省<予定>)	バイオマスエネルギー利用の現状、再生可能エネルギーとしてのバイオマスの活用、等
3	バイオマス概論Ⅰ (エネルギー利用)	バイオマスの現状、定義と特徴、分類、賦存量、特にエネルギー変換技術、導入・普及策等、現状並びに将来展望
4	バイオマス概論Ⅱ (マテリアル利用)	バイオマスの現状、定義と特徴、分類、賦存量、特にマテリアル利用技術、導入・普及策等、現状並びに将来展望
5	バイオマス活用の事業化	バイオマス事業へ向けた課題、事業収支試算における課題、バイオマス活用の事業化へ向けたキーファクター、等
6	バイオマス活用事例Ⅰ (廃棄物系バイオマス)	廃棄物バイオマスの活用事例を、特に食品廃棄物を中心に紹介、解説
7	バイオマス活用事例Ⅱ (木質系バイオマス)	木質系バイオマスの活用事例を紹介、解説
8	バイオマス活用先進事例 (自治体主体の例)	バイオマス活用のみならず、副次的効果も含めた先進事例自治体を対象として、バイオマス活用のきっかけ、計画策定や事業化における市町村担当者の進め方や調整等の経緯、等
9	国のバイオマス活用施策のまとめ	バイオマス・ニッポン総合戦略以来とられてきた国のバイオマス施策を履修するとともに、バイオマス産業都市等の将来展望を解説
10	バイオマス活用推進計画策定の実務	バイオマス活用推進計画策定までの企画、スケジュールリング、市町村の予算申請、委員会運営、検討事項、等の実務
11	バイオマス活用推進計画の策定(行政における取組)	市町村行政の構造や意思決定等の仕組み、市町村側から見た計画策定までのプロセス(発端から公表まで)、市町村側からコーディネーターに望むこと、等
12	推進計画策定に係る調査フロー及びバイオマス賦存量の算定方法	コーディネーターとしての心構えと予備知識の確認、計画策定に係る調査フロー、必要な情報の種類と収集戦略、モノに関する情報の入手方法、モノに関する情報を用いた構想の診断、情報収集と整理に関する留意点、バイオマス賦存量の実践的な算定方法(データの調査方法、計算方法等)、現状の利用量の把握方法(ヒアリング、推定方法等)、等
13	バイオマス活用推進計画策定実習(個人)	(1)バイオマス活用推進計画案作成 計画書全体デザイン、資料の分析(記述箇所の把握、不足情報の把握 等)、バイオマス賦存量・活用量の算定、バイオマス活用推進計画案の作成
14	バイオマス活用推進計画策定実習(グループ)	(2)現地研修計画書案 現地研修内容(視察及びヒアリング先、現地のプレゼンテーション等)の検討、調査時間配分等の検討、現地研修計画書案の作成
15	推進計画案の発表	総合、プレゼンテーション、質疑応答、等
16	現地研修	別途応募いただいた市町村における関係者へのヒアリングや現地調査等に基づく、バイオマス活用推進計画案の練成をとおした実効性のある計画策定手法等の習得、計画案のプレゼンテーション、質疑応答、等(講義・実習から現地研修までの期間を含みます。)

[別表3] バイオマス活用アドバイザー養成研修 現地研修 日程例

現地研修は、2019年10月～12月のうち、現地研修実施市町村が希望する、休日を除いた連続する4日間で実施します。現地研修の日程例を下記に示しますが、詳細は、実習時に研修生と自治体担当者にて調整していただきます。

<日程例1>

日目	時間	現地研修 概要
講義・実習から 現地研修まで		受講生グループによりバイオマス活用推進計画案の作成を進めていただきますので、必要に応じて事前に、事務局を通じて資料提供依頼、質問等をさせていただきます。
1	午前	近隣自治体先進事例視察先へ移動（自治体担当者、研修生、事務局）
	午後	近隣自治体バイオマス活用先進事例視察・ヒアリング 現地研修自治体へ移動
2	午前	現地研修オリエンテーション（自治体庁舎） 庁内関係部署ヒアリング（賦存量精査[資料提供、ヒアリング]、関係各部署におけるバイオマス活用の関連施策・現状・課題・方針等）
	午後	地域関係者（有識者・事業者等）ヒアリング（バイオマス活用の現状・課題・方針等）
	夕方	意見交換・交流会（庁内関係者、研修生、事務局）
3	午前	地域関係者（有識者・事業者等）ヒアリング（バイオマス活用の現状・課題・方針等）
	午後	バイオマス活用推進計画案の作成
4	午前	バイオマス活用推進計画案の作成
	午後	庁内および地域関係者へのバイオマス活用推進計画案のプレゼンテーション、質疑応答、意見交換

<日程例2>

日目	時間	現地研修 概要
講義・実習から 現地研修まで		受講生グループによりバイオマス活用推進計画案の作成を進めていただきますので、必要に応じて事前に、事務局を通じて資料提供依頼、質問等をさせていただきます。
1	午前	現地研修先自治体へ移動（研修生、事務局）
	午後	現地研修オリエンテーション（自治体庁舎） 地域のバイオマス活用事例（施設等）視察・ヒアリング
	夕方	意見交換・交流会（庁内関係者、研修生、事務局）
2	午前	庁内関係部署ヒアリング（賦存量精査[資料提供、ヒアリング]、関係各部署におけるバイオマス活用の関連施策・現状・課題・方針等）
	午後	地域関係者（有識者・事業者等）ヒアリング（バイオマス活用の現状・課題・方針等）
3	午前	地域関係者（有識者・事業者等）ヒアリング（バイオマス活用の現状・課題・方針等）
	午後	バイオマス活用推進計画案の作成
4	午前	バイオマス活用推進計画案の作成
	午後	庁内および地域関係者へのバイオマス活用推進計画案のプレゼンテーション、質疑応答、意見交換

2019年度 バイオマス活用アドバイザー養成研修 現地研修自治体申込書

一般社団法人日本有機資源協会 会長 殿

2019年 月 日

申請者	フリガナ		フリガナ	
	自治体名		担当部署名	印
	(所在地) 〒 <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> 都道府県 市区町村 </div> TEL — — FAX — — E-mail			
ご担当者 ※住所等は上記所在地と異なる場合のみご記入下さい	フリガナ		フリガナ	
	お名前		役職名	
	(住所) 〒 <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> 都道府県 市区町村 </div> TEL — — FAX — — E-mail			
応募理由				
バイオマス活用の現状および今後の方針				

2019年度 バイオマス活用アドバイザー養成研修

現地研修自治体申込書 (記入例)

一般社団法人日本有機資源協会 会長 殿

2019年 月 日

申請者	フリガナ		フリガナ	
	自治体名		担当部署名	印
	(所在地) 〒 都道府県 市区町村 TEL — — FAX — — E-mail			
ご担当者	フリガナ		フリガナ	
	お名前		役職名	
	※住所等は上記所在地と異なる場合のみご記入下さい (住所) 〒 都道府県 市区町村 TEL — — FAX — — E-mail			
応募理由	貴自治体の施策におけるバイオマス活用の位置づけ等、バイオマス活用にあたっての基本的なお考えを記述下さい。 記述例： 地域の農産物の付加価値化と農家の営農経費（肥料代）の低減をはかるため、家畜排せつ物と生ごみによる高品質コンポスト化施設の整備を検討しており、バイオマスタウン構想を見直してバイオマス活用推進計画を策定したい。			
バイオマス活用の現状および今後の方針	可能な範囲で、貴自治体における ・バイオマス資源の概要 （種類、量、活用量、課題となっているバイオマス、特徴的なバイオマス、等） ・バイオマス活用の現状、課題、方針、等の概要を記述下さい。 記述例： (1) バイオマス資源（例：〇〇地区の林地残材、△△食品会社の食品廃棄物、等） (2) 課題（例：耕畜連携の推進、ごみ処理費用の削減、等） (3) 活用技術（例：〇〇技術による□□製造、△△技術によるエネルギー利用、等） (4) 製品等の供給先（例：〇〇生産農家、△△企業のエネルギー利用、等） (5) 活用方針（例：バイオマス利用率100%を目指す、エネルギー自給率向上、等） なお、別添いただいても結構です。			